

発行責任者 東京都立向丘高等学校同窓会
 会長 宮久保 渡
 編集 会報委員会
 事務局 〒113-0023
 東京都文京区向丘 1-11-18 向丘高校内
 TEL 3811-2022
 FAX 3812-4055



スカイツリーと隅田川八橋（手前より、桜橋、言問橋、東武線鉄橋、吾妻橋、駒形橋、厩橋、蔵前橋、総武線鉄橋）

へりから撮影：前会長 小川力洋氏

同窓会活動のご案内（やよい会）

①同窓会総会

平成24年4月22日(日)

総会 受付 12:00

開始 12:10～12:30

(会務・会計等の報告・審議)

懇親会 12:30～15:00

和食・酒席パーティー

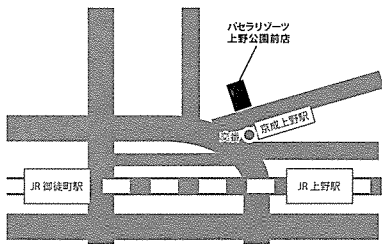
会場 パセラリゾーツ7F「フーズフーズ」

台東区上野 2-14-30

TEL 0120-759-817

会費 3,000円(他会補助)

※お楽しみ抽選会あり



申込方法 同封の振込用紙にて4月10日(火)までにお振込み下さい。

②平成23年24年卒業生 歓迎昼食懇談会

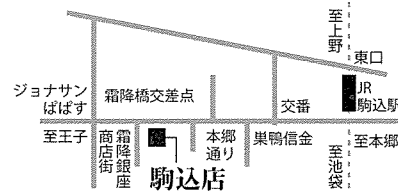
日時 5月20日(日) 13:00～15:00

場所 磯太郎

電話 03-5394-0511

住所 北区西ヶ原 1-55-27

会費 無料(他会補助)



卒業時の各学級幹事が参加人数をおまとめの上、会長までお知らせ下さい。

③全国大会

やよい会埼玉県浦和大会

日時 6月17日(日) 13:00～15:00

場所 浦和駅東口前 浦和パルコ5F

和食「やおまん」

TEL 048-611-8389

会費 3,000円(他会補助)

申込方法 同封の振込用紙にて、お振込下さい。

④学校訪問(ホームカミング)

平成24年9月22日(土)～23日(日)

9:00～15:00

母校向陵際(文化祭)音楽・演劇・研究発表あり PTA 展示室にて同窓会作品展示あり一般会員の出展歓迎(要連絡。宮久保会長まで)

総合問合わせ先

〒171-0032

東京都豊島区雑司が谷3-14-5

東京都立向丘高等学校同窓会

会長 宮久保 渡

TEL 090-4597-0475

FAX 03-3981-4554

メール w-miyakubo@tuba.ocn.ne.jp

ご挨拶

同窓会と母校の
飛躍と発展を！



同窓会会長 宮久保 渡

1.はじめに

昨年の総会で、新しく会長に選任されました。昭和45年卒の宮久保渡です。小川力洋前会長におかれましては、24年の長きに渡り会長を務める間に、同窓会財政の確立、名簿の作成、会報「やよい」の発行、学校・PTAとの緊密な関係の構築、そして何よりも毎年の卒業生がほぼ全員加入するなど、同窓会の基礎づくりから、今日までの発展を実現させてきた先輩であり、その努力に同窓会を代表し、感謝と敬意を表したいと思います。私は、前小川会長の実績を踏まえ、さらに、同窓会会員相互の親睦と発展、そして母校の飛躍と発展及び、在校生の応援を行なっていきたいと考えています。会員の皆様のご協力を心からお願い申し上げます。

2.総会・懇親会にご参加を

毎年、会報にて同窓会総会日の発表をし、事業報告・会計報告・次年度計画の審議などを行い、議事を決議しております。今年は、学校ではなく、外の会場で総会を開催致します。一般的なパーティ

形式です。(お酒あり)

同期会・クラス会・クラブのOB会を開催したいと考えている皆様は、是非ご参加下さい。同窓会で応援を致します。多くの皆様が参加されますようお願いいたします。

また、全国大会を今年は、埼玉県さいたま市浦和区にて開催致します。埼玉県にお住まいの方は、こちらへもご参加下さい。

3.平成23年・24年卒業生の皆さん

同窓会入会にあたり、卒業時に印鑑を贈呈しております。更に今年は、同窓会入会歓迎昼食懇談会(ノンアルコール)を開催致します。是非クラス幹事を通じて申し込みして下さい。

4.入会金・年会費の拝受

入会金に関しましては、1万有余の会員の皆様に、会報発行・発送をさせて頂いております。

年会費のご協力によりまして、会の運営が賄われています。貴重な財源として大切に、かつ有効に活用させて頂こうと、感謝を申し上げ、尚一層のご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。

5.ホームページの作成

平成24年度中に、同窓会独自のホームページを作成致します。同窓会全体のものと、同期会・クラス会・クラブOB会サイトなど、会員相互の交流・親睦をはかるため作成委員会をつくり、準備を進めています。こちらの方についても、皆様のご協力をお願いします。

創立40・50・60周年祝賀会と
ともに24年感謝



同窓会前会長 小川 力洋

日頃から同窓会(やよい会)に対しまして、ご理解ご協力ご支援を頂きまして誠に有難うございます。お蔭様をもちまして、会活動は順調に運んで参ることができました。

省みますに、昭和62年5月に要請を頂き会長に就任致しました。それまでは、まとまった会員名簿・お便り集、役員名簿も無く、会活動の広報が同窓生に伝わっておりませんでした。直近卒業生たちのみの集まりで、全体的には殆んど未整理となっておりました。

まず、名簿作りに業者選定から始まり、未完成で小数でもよいからと、名簿らしきものを手当たり次第寄せ集めまして、整理を依頼しました。これにより会報第1号《創刊号H4年》を発行し動き出したものでした。それ以来毎年1回発行を続けて参りまして、第21号《平成23年3月》となり全国1万500部を発送している所です。只発送すれば良いのか、一部会員から年会費のご支援を頼ってはいけるものか、全般的には受け止め方はいかがなのか? また、同窓会への入会加入同意は全員から頂けるものなのか? 今後課題が残されているものの、継続していかねばならないと、考えさせら

れるところでありました。

さて、これまで第12代校長新城昇/13代校長池永武昭/14代校長北村透/15代校長北村正生/16代校長石井隆夫/17代校長戸谷賢司/18代校長前蘭実/19代現校長関根茂先生方へと、創立40周年、60周年記念を滞りなく送らせて頂く事が出来ました。

去る平成23年4月29日の総会において、就任以来24年間となりましたが発展的勇退し、後進に道を譲ることに致しました。そして、私は名誉顧問として、側面から支援をさせて頂くことになりました。長い間のご声援に感謝申し上げます。御礼の言葉とさせて頂きます。

尚、新会長には宮久保渡(わたる)氏昭和45年卒が推挙され就任されました。相変わらず旧に倍しまして、ご厚情の程お願い申し上げます。



学校教育に思うこと



校長 関根 茂

学校教育をとりまく環境は、従前から指摘されている少子高齢化社会への対応の問題、つまり、子どもが少なくなり、逆に高齢者が増えることからの財政的な問題や国家としての活力を維持し高めていくにはどうするのか、という問題があります。これらに加え、長引く不況など、ともすると国民の中にこの国の将来に関する不安感を醸成させかねない課題が山積しています。このような社会情勢の中で、数少ない子供たちへの期待感がより一層強くなっているように感じられます。

二十一世紀に生きる高校生に求められる資質・能力とは何か。例えば、企業が求める人材例を申し上げますと、勤勉さや誠実さなどが協調されていた高度経済成長期までと比較し、経済的に成熟期に入った日本においては、より独創的な思考やチャレンジ精神を持つ人材に対する要求へと、多少のニュアンスを変えているように感じます。また、家庭や地域の教育力が減少していると指摘されるような状況の下で、教育活動のすべてを学校

が背負っていくのは過重すぎる面といわねながらも、課外活動の指導や本来主として家庭教育に委ねられるべき規範意識の定着なども、学校が主体となって取り組まざるを得ない現実があります。

保護者の考え方もさまざま、進学に向けた教育の充実を強く求める方がいらっしゃる反面、過度な進学競争を好まないという捉え、特別教育活動を中心とした人間性の育成により力を入れることを望む方もいらっしゃる状態です。私は校長として、向丘高校に適した個性や特色ある学校作りを推進していくと共に、生徒の学力向上を図り、一つ上の進路実現が叶うことを目標に取り組んでいます。「確かな学力」を身に付けさせるために、授業の質の改善を個々の教員に自覚を促すとともに、研修への条件整備を心がけています。また、少人数クラスや習熟度別クラスの充実や、土曜日の活用等を進めています。また、豊かな心の育成を図るため、部活動やボランティア活動なども力を入れています。向丘高校を「文武両道の進学校」として、過去の栄光を取り戻したいと考えるからです。

小川前会長はじめ同窓会の皆様には、体育館水呑場の寄贈や、その他本校への温かいご厚情やご支援に、厚くお礼を申し上げます。昔は優秀な私学とは、開成や麻布等を指したそうですが、向丘高校が過去の栄光を取り戻し、さらなる飛躍

を遂げるよう、現教職員一丸となって努力しなければいけないと思います。同窓会の皆様には、母校に足を運ばせ、生まれ変わりつつある母校を見ていただき、指導・助言をお願い申し上げる次第です。

本校の状況



副校長 難波 伸一

同窓会の皆さまには、日頃大変お世話になり感謝申し上げます。文化祭、学校運営連絡協議会、施設・設備等々の面でご協力くださり、どうもありがとうございます。

本校の状況を申し上げます。平成二十三年五月一日現在で、生徒数七四六名です。内訳は一年生二四一名(六クラス)、二年生二七三名(七クラス)、三年生二三名(六クラス)で、男子三五四名、女子三九二名です。校舎は正面全面ガラス張りの六階建てA棟と四階建てB棟があり、両棟は三階・二階部分の連絡橋でつながっています。A棟は旧一号館・二号館解体後、平成十年一月に完成しました。築一四年になりますが、今なおかなりきれいです。生徒たちはおだやかで、仲がよいです。また静かに授業に取り組んでいます。

最近三カ年の卒業時の進路状況は、大進学五・五・三%、短大進学四・三%、専門学校進学二〇・五%、就職三・四%、進学準備・その他一六・五%です。最近三カ年の大学合格者数(現役・既卒)合計で、一番多いのは東洋大学四七名、次が日本大学二七名です。早稲田大学は三名です。早稲田には過去三年、毎年既卒者が一名合格しています。平成二三年度の学校経営計画では、目標として、MARC H(明治、青山学院、立教、中央、法政)、日東駒専(日本、東洋、駒澤、専修)レベル以上の大学を目標にできる指導の工夫を挙げております。そのためにもキャリア教育を充実させ、生徒に将来への目標をもたせ、学習意欲を高めることが重要だと考えております。

キャリア教育とは、人生や職業について考えさせる教育で、現在、文部科学省や東京都教育委員会が積極的に推進しています。例えば、社会人等を招き人生や職業を語ってもらったり、企業等で実際に働かせてもらったり(インターンシップ)、企業等で働いている人のそばで見学をしたり(ジョブシャドウ)します。今後、社会人等による講演会を開くなどキャリア教育を実施したいと考えております。同窓会の皆さまにも何らかの形でご協力をお願いすることがあるかもしれません。その節はどうかよろしくお願いたします。

P T A 会 長 か ら



今までも... これからも...
向丘PTA会長
石塚 知美

今年度向丘高等学校PTA会長を務めさせていただきます。人と人の輪を大切に、また自分の生活に活かして親子それぞれが「向丘で良かったな」という実感と一緒に卒業出来る様に役員一同、努力しております。

まずは同窓会の皆様には、昨年の夏前に水場を作っていたいただきました事、感謝申し上げます。部活中の生徒達への熱中症予防にとでも助かっています。ありがとうございます。

さて、今春私の息子も同窓生一年生になる訳ですが、PTAは在学中限定のサポートとなります。常に「保護者のコミュニケーションが生徒の為に繋がりますように」と念頭に置きながら、良き伝統を引き継ぎ、改善すべき点は精査していくスタンスは変わらずに、特に今年度は気付いた時にすぐアクションを起こす機動力を大切にしています。そうした中で、良い時もそうでない時もあると思いますが、長い目で支えてください。

同窓会とPTAは向陵祭でのコミュニケーションが大きな機会となっております。これからも、生徒同様、人生の先輩として温かく見守っていただけたら嬉しいです。最後に、私の自宅近所にも向丘同窓生が何人かいます。先日、当時のアルバムを見せていただき思い出話も聞かせてくれました。なかなか同窓会に行けなくてと寂しうでしたが、この広報誌で同窓生が繋がれるのは素敵な事です。長く続けるにはご苦労が多々あるかと思いますが、今年も同窓会の方々のご健康とご多幸を祈念いたします。

S46年卒

恩村一郎 (札幌地区幹事)



「札幌在住者が13名もいる・・・!」小川前会長からご案内をいただいていたので率直な感想でした。

私が向丘高校へ入学したのは昭和43年(1968年)、学校群制度の中で振り分けられた進学先でした。もともとは札幌生まれで夕張、三笠といった炭鉱町を父親の仕事の関係で渡り歩き、中学3年に進級する際、高校での転校はしたくないとの思いから文京区の母方の実家に一人移り住んだのが、都立高校へと進学するきっかけになりました。東京では多くの友人を得ることができましたが大好きな北海道への想いは断ち切れず、大学を卒業と同時に札幌の放送局(札幌テレビ放送)に就職(運が良かったのでしょう・・・もともとこのとき既に両親は大宮に移り住んでいましたが・・・)、以来放送記者、ディレクター等放送マンとしてのサラリーマン生活を23年余り勤めてきましたが、平成11年春、縁あって札幌市議会議員選挙に挑戦して当選、現在4期目に入りました。ですから当然のことながら、この札幌の地に向丘高校の同窓生がいるなどということは、思ってもみなかったことでした。

昨年10月17日の夜、道内を巡り旭川から札幌入りされた小川前会長、宮久保会長ら同窓会役員4名の先輩諸氏と合流、その後地元参加の岩田氏(14期)も加わり、ささやかながら6名による同窓会北海道支部(?)の懇親会の開催です。世代の違いはあれど、やはりそこは同窓生です。当時の学校のこと、教鞭をとられた先生たちのこと、そして連日汗を流した部活の思い出話等々、昔話に花を咲かせたひと時でした。

高校で開かれる同窓会は、時期的なこともありなかなか参加することができずにいますが、うまくスケジュールが合えば、次回はぜひ久しぶりに参加したいと思っています。また小川前会長がせっかく掘り起こして下さった北海道在住の同窓生の芽を、今度はしっかりと連携を取り合いながら育て上げていけるよう、汗を流してみたいと思っています。

全 国 大 会

「やよい会札幌大会」報告 (中止で義援金から催行へ)

第21号やよい誌上发表のとおり企画を進めておりましたが、3月11日突如東日本大地震とともに百年に一度といわれる大津波の襲来で大惨事となってしまいました。

たまたま総会前でしたので急遽幹事会を開きました。そんな状況ではないと判断の結果ホテルもキャンセルすることとなりました。少なからずとも義援金とすることが良策となり早速現地宛送金(10万円)いたしました。

北海道在住者にはその旨をお伝え申し上げて承りました。そうこうしている中で状況は長期にわたる様相でした。そこで小川前会長が構想を立てたものですが、本年で勇退されました。今年この機会を逸すと当分不可能となりそう、なんとかもう一度旗揚げ、考え直してみようとなり、廉価で観光視察を含めた効率の良い旅程を模索しました。

現地では恩村一郎氏(昭和46年卒)にお膳立てのお世話を頂き、私どもは観光バスの帰着時間の頃合いを見て、お出迎えまで願い「すすきの市場」近くの小料理店「一心」へご案内頂きました。

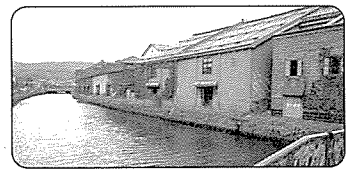
催行のご案内は旅行社の都合で1ヶ月前となってしまいましたので、札幌市内在住者のみ(13名)に発送しました。こんな無理押状態にも拘らず現地から世話役の恩村一郎氏と岩田昭氏(昭37卒)がご参加願えました。

お店の所に会旗を掲げさせて頂き、校歌を歌い、母校の現状を話し、学生時代を懐古し9時過ぎに手締めで解散しました。私どもは折角の訪札でしたので、近くのラーメン横丁にて試食し、市内をぶら歩き40分程の後、無事ホテルに戻り、明日の小樽行に備えました。

(役員記)



小料理「一心」にて H23年10月17日(月) 19:00~開催



小樽運河と倉庫群

小川力洋前会長を囲む会 歴代校長、PTA会長OB会が開催

去る23年11月27日正午から、上野池之端「水月ホテル鵬外荘」にて開かれまし
た。創立40周年、60周年、そして現在ま
でのすべての校長先生方と、会長OB会
の皆様にて、それぞれの時代を共に歩ん
で来られた思い出話に花が咲きました。
特に50周年前後のプレハブ校舎から新



校舎の落成祝と周年祝を同時に行いまし
た。学校・PTA・同窓会が一致結束の
暁で万事首尾よく完遂できた事等、とて
も懐かしい楽しい物語となりました。

同窓会というものを正式な形として、
名簿のまとめ、会報の発行配布へと永き
に亘り形作つて下さった功績は多大なも
のと全員で称えました。山口延利氏が司
会進行し、最後に中島道弘氏の生伴奏で
久しぶりに校歌を歌い、宮久保渡新会長
の手締にて散会となりました。

幹事記

本郷肴町 (学校の都電の駅名)のこと



王子駅前 飛鳥山 一里塚 西ヶ
原二丁目 西ヶ原一丁目 霜降橋
駒込駅前 駒込橋 上富士前町 駒
込富士前町 吉祥寺町 本郷肴町
蓬萊町 本郷追分町 東大農学部前
東大正門 東大赤門 本郷三丁目
本郷一丁目 湯島二丁目 神田明神
松住町 万世橋 須田町 神田
駅前 今川橋 室町三丁目 室町二
丁目 日本橋
都電十九系統の各駅名である。距離は、

九・六二八キロメートル。大正十二年(一
九二三)四月に開業した電車である。

板橋区の家から向丘高校へ通うには、
三年間、お世話になった電車だった。私
が通学していた頃は、省線の駒込駅から
都電で本郷肴町か、巣鴨駅から都電で白
山上で乗り降りしたものだ。都電の
ことを調べていたら、巣鴨からの都電の
路線は、最初は白山上で左に曲がり、本
郷通りを右に曲がって本郷肴町を経て日
本橋へと続いていたようだ。大正四年(一
九一五)三月に本郷追分町 本郷肴町
間及び本郷肴町 白山坂上間が開業し
た。

本郷肴町、町名は駒込肴町である。も
とは兵庫町といったが、魚商が多く住み、
幕府にも魚を度々献上したことから牛込
肴町となり、今日に至っている。

文京区は江戸時代に、今の本郷三丁目
付近で府内と府外に分かれる境目だっ
た。古くから、江戸の内と外は、本郷三
丁目と言われている。本郷通りと春日通
りの交差するところ、本郷三丁目にある
老舗の小間物商「かねやす」を詠った古
川柳に『本郷も、かねやすまでは江戸の
内』ということばがあり、ここから北は
江戸の郊外であるという感覚で扱えられ
ていた。その北に向かって本郷通りを行
くと、本郷追分町がある。日本橋から丁

度一里にあたる。ここを左に行けば中仙
道、右に行けば岩槻街道となる。角に有
名な高崎屋(酒屋)があつて、その前が
東大農学部である。

ついでに本郷肴町の隣の駅の紹介をし
てみよう。

南隣は、駒込蓬萊町で、天文年間(一
七三六〜四一)に町屋が聞かれた。町の
向かい側に寺院が四寺(瑞泰寺・栄松寺・
清林寺・光源寺)があつたので、四軒寺
町と唱えた。明治五年、浅嘉町の一部と
光林寺門前、高妙寺、浄心寺などの寺地
を併せて町名を蓬萊町とした。

北隣りは、吉祥寺である。曹洞宗諏訪
山吉祥寺は、明歴三年(一六五七)の振
袖火事の後、神田駿河台から現在の駒込
に移転して今の「吉祥寺」となった。そ
の時、大火で家をなくし移り住まなけれ
ばならなくなつた人たちが、新たに開拓
した武蔵野の地を「吉祥寺」という地名
にした。

向丘高校は、十数年前に改築工事をし
たとき、弥生式の土器とかが出土して工
事が遅れたという話を聞いたことがあ
る。文化遺産に囲まれ、文化財を地下に
埋蔵している学校など、そうはあるもの
ではない。それだけでも、向丘高校で学
んだことを誇りに思うことが多い今日こ
の頃である。

同期会報告



S45年卒業生

幹事 酒井 和美

S45年卒業生の同期会を平成23年9月18日に永田町の都市センターホテルにて開催致しました。向丘高校在校時の担任でいらつしやる吉田善雄先生、江川茂彦先生をお招きし、同窓生52名が集合致しました。

今年、私達は60歳となり「還暦祝い」を兼ねての会でしたが、今どきの60歳はまだまだ元気一杯！皆、昔に戻ってワイワイと、君、君、君と呼び合って、本当に懐かしい楽しいひと時を過ごすことが出来ました。二次会はもちろん三次会にも半数以上参加して下さい、皆で旧交を温めました。

還暦という人生の節目に、懐かしい仲間と語り、懐かしい日々を思いを馳せることで、皆それぞれの人生の軌跡をたどる事が出来た一日であつたと思います。

次回の同期会は3年後に決まり、また、元気に再会することを約束して閉会となりました。お忙しい中ご参加くださった先生方、そして同期の皆様、ありがとうございます。感謝、感謝の一日でした。

次期幹事は、橋本文隆(3A)、浜田明彦(3A)、磯川(浜中)啓子(3B)、粕谷卓志(3D)、伊藤典子(3F)、久郷(桂)和子(3G)。

S51年卒業生

宮沢 政明

A組の池永氏と有志が幹事となつて開催した記念すべき第一回28期同窓会から、10数年の時間が流れ、旧友の方々から熱い篤い開催要望が私のところへ寄せられるようになりました。無精を決めていた私も友人からのプレッシャーに抵抗しきれず、平成23年11月19日(土)、第二回同窓会を東西線竹橋駅ビル内の中国料理店で開催しました。

当日は、この季節としては珍しいほどの大雨で、欠席者が続出するのではないかと心配しましたが、参加者46名、二次会参加者39名という大盛況の同窓会となりました。



私たち28期生の年齢は54才、在学時にはリアルに想像できなかった年齢となり、個人差はあるもののそれなりの貫録がつき、街ですれ違った程度では分からないほど風貌は変わってきています。それでも会って話して

すると昔の面影を見つけて、すぐに学生時代の感覚に戻り、親しみが湧いてくるのが不思議です。

受付前から、旧友の顔を見るたび「わあー、〇〇さん？元気？懐かしいー」などと話しが始まり、受付もそこそこに話しが盛り上がります。円卓着席での宴会でしたが、前菜が出てエビ料理に箸をつける頃には、各自が思い思いの席に移動して、近況報告、在学時の想い出話を花を咲かせ始めます。時間が進み、都合が付かず参加できなかった方のコメント発表や次期幹事の立候補宣言、各自自己紹介のイベントの頃には、大きな歓声と拍手が寄せられ、場のムードは最高潮に達しました。終始ワイワイガヤガヤ、一次会、二次会を通じて旧友との会話は尽きるこ

とがなく、目を輝かせ青春時代に戻つて楽しい一夜を過ごしました。

卒業から30数年が経過し、子育てを終え、定年も視野に入れた生活設計をする年齢となりました。また、社会的には指導的立場になり、会社や地域社会など多方面で活躍するなど、人生の成熟期を迎えようとしています。充実した生活を送る私たちですが、無茶をして、泣いたり、笑ったり、素の感情を表に出して過ごした学生時代の記憶はとて貴重で、歳を重ねていくごとに懐かしさが増していきます。

同窓生の皆が元気であることを願うとともに、より多くの仲間と再会できる日がくることを願ひ、報告を終えたいと思います。



これからの自分をみつめて



S 34年卒
石山彼早子
(旧姓 佐伯)

昨年の東北大震災で被害を受けた方々のことを思うと胸が痛みます。遅々として進まない復興の事業、被害者全般に対しての不平等な処遇、ボランティアの人々の支援に甘えているとしか見えない政府の対策、エトセトラ、エトセトラ。世の中には不公平なことばかりで弱者には特に冷たい仕打ちと目に写るのは私のひがみでしょうか。

私は、今年の干支、"辰"の生まれで七十二歳になります。だんだん体力は衰え、頭の回転も鈍くなりすぐ何かを忘れることが多くなり困ります。それを最小限に押さえる方法は？いつも考えています。人それぞれに十色で考え方はいろいろです。今さらに机に向かって書物から何かを学ぼうとしても

頭の吸収力は低下する一方です。自分の好きなジャンルの小説を読んだり、好きな音楽を聴いて心を癒したり、たまには気の合う友人と旅行をしたり、あまりストレスを感じない生活をしようと思っています。

気力はまあまあとしても体力と持久力は低下の一端を辿っています。自分の健康は自分で守る以外はありませんし、人に迷惑をかけながら生きていくのは辛いことです。若い頃は考えもしなかったことを歳を重ねるごとに思います。残念なことにこれが現実です。

去年八月の終りに練馬の石神井から埼玉県の越谷市へ転居しました。長男の仕事の関係上、やむを得ずということなのですが、生まれてずっと東京に住んで都内を移動したことは何回かありましたが、都外に出ることは今回が初めてでしたので、とんでもなく遠いところという意識が先立ち慣れた地域、友人達との別れ、これから先への不安が過ぎり、夜も寝られない日が続きました。いつまで考えていても前進はないし、気持ちを切り替え前向きに考えた結果、長男に従うことにしました。

転居して約四ヶ月余り、住めば都との言葉の通り、地理にも慣れ、生活も落ち着きました。この先自分の健康と相談しながら無理せず、できる範囲で、今迄お付き合い戴いた方々との交流を、大事に過ごせたらと思っています。

同窓会を通して



S 40年卒
杉浦 重治

同窓会名簿作成のため、ハガキが送られてきて初めてその存在を知りました。平成二年四月、送られてきた名簿に記載された氏名を見ながら、在校中の事が懐かしく思い出されました。

翌平成三年一月第一回ホームカミングが母校にて開催され、これに参加して以来、今日に至ります。同窓会報第2号をみてその活動ぶりを知りました。「やよい」の名称は、平成元年四月の総会で、同窓会の略称を「やよい」と決め、会報の名称にも使うこととしたと記載されてありました。校歌の歌詞の唄い出しの頭であり、また、弥生土器発掘の地にもあやかったものであるそうです。

同窓会、特に幹事として参加していると、都立高・在校生・PTA・OBに係る情報・動向を知ることができる。日頃、自分と違った環境で生きている人々との出会いは刺激的です。

同窓会全国大会を各地で開催してきましたが、平成十八年五月新潟大会で、クラスメイト小山(旧姓吉田)ゆき子さんとの四十年ぶりの再会は懐かしい限りでした。また、平成二十一年五月茨城大会では、講師の方に東海村を案内していただき、原子力・放射線に関心を持つきっかけとなりました。

新会長に応援を



S 41年卒
尾道 郁代
(旧姓 大橋)

同窓会参加当初の学校事情は、都立校全体が荒れて、先生方が大変苦労されていたようですが、近年は、部の活発な活動、地域社会への積極的な参加・連携、頭髪・服装・挨拶、校内の清潔等、会報を通して先生方のご尽力を伺い知ることができ嬉しく思います。

二十四年間という長きにわたり同窓会会長を務めた小川会長が勇退し、今年度から新会長 宮久保渡さんになりました。こんなに長い間会長を務められたのは、ひとえに旧会長小川さんの情熱の賜物と感じます。そして、同期の三田副会長と書記の山本越子さんの支えがあったからとも思います。

私が初めて同窓会に参加した時、あたたかい笑顔で受付をされた方が、山本さんでした。あれから二十年近く経っているから、幹事会に出られない時もしばしばありましたが、良き先輩に教えられこれ迄続けられたと思います。新会長の宮久保さんも引き継いでいけることと、また別のアイデアで進めていかれることを期待します。それには同期生の協力者よ！ぜひ応援してください。

中国国境地帯を往く



S 36年卒
田中 正明

気象情報のテレビ画面に、朝鮮半島の地図が映し出される。画面を見ると、中国国境の半島の付け根の部分を移動しその途次目にした情景や出会った人々の笑顔が重なってくる。

中華人民共和国の吉林省琿春市から遼寧省瀋陽市まで、陸路をおよそ二五〇〇キロメートル移動した。同国の東北部にあたる一帯は、幾度も日本の歴史と関わってきた地で、近・現代史の舞台となったものの知ることのなかった都市が幾つかあった。

旅の目的は、「中国・ロシア・北朝鮮三方国が接する琿春市(旅の東端)から、北朝鮮を眺みつつ中・朝の国境に沿って西下し、松江河で清王朝を開いた満州族発祥の地と伝える長白山(朝鮮名は白頭山)に登り、集安市・桓仁市(旅の西端)の地に残されている高句麗国の遺跡群を訪ねる」ことであった。旅の感慨を、幾つか綴ってみた。

長白山の麓には、広大な原始林が広がっていた。一六の峰を擁し標高二六〇〇メートルを超える山頂へは、東西南北の四方向から向かうルートがあり、北朝鮮

側に属する東側ルートを除いて三方向から登り下りした。とは言え、いずれも循環バスと駆動車を乗り継いで山頂付近に達したもので(西ルートには二三〇〇段の階段もあった)、北側からのルートは何千人もの人々で賑わっていた。山頂は中朝両国に分かれ、中朝国境碑が建っている。両国の公安職員が目配っていたが、笑みを湛えた人々が碑を囲んで記念撮影に興じていた。聖地と讃える天池(カドデラ湖)があり、強い日差しを受けた湖面は美しく刻々と変化していた。一転、未整備の悪路を長時間揺られて至った西側は訪れる人が少なく、峰々と天池が閑寂とした中で存在を誇示していた。

長く続く中朝国境の有り様も、興味深いものであった。国境となる図們江(朝鮮名は豆満江)の流路は長く、国を分ける図們大橋の先には隣国の人影と車両が見え、橋の下には客を乗せた中国の遊覧船が浮かんでいた。陸地の国境は、数種類の形状の鉄条網やフェンスで隔てられている。かつて、指呼の距離で隣国と接する韓国の江華島で、螺旋状の強固な鉄条網が海に面して巡らされている光景を目にしたが、朝鮮民主主義人民共和国と対峙した中華人民共和国・大韓民国の政治的な有り様の相違を象徴しているように思われた。

高句麗国の遺跡群は、集安市・桓仁市の広い地域に点在していた。同国は紀元

前一世紀に興り、以降支配地域を遼東・朝鮮半島北部に広げ、一九代好太王(広開土王 在位三九一〜四一三)の時代に強勢に達した。王はこの時期新羅の救援要請を容れ、半島に進出した倭と交戦したと伝えられている。平地に幾つもの墳墓を、山地に將軍塚や山城を巡った。吉林省集安市通溝に建つ碑は、四面から成り子の二〇代長寿王が建てた自然石の六メートルを超える大きなもので、これまで見たいずれの写真とも異なりガラス張りの立派な堂宇の中に収まっていた。因

に、碑のわが国への紹介は明治一六年に日本陸軍(当時)の軍事探偵が行ったが、時代の推移の中で見学する機会が封じられてきた。今その碑の前に建っている。四世紀の古代日本が関与した記述が刻される碑文は、改作説を含め解釈に諸説がある。とは言え、刻まれている千数百の文字の中に、当時の日本を表す「倭」、半島に存在した「百濟」「新羅」の文字を見出した時の気持ちは、譬えようのないものであった。

一月十九日、朝鮮民主主義人民共和国の最高指導者金正日総書記の急死が報じられた。報道各社は連日次期後継者問題などについて報じたが、その中で中国軍が中朝国境地帯の警備を強化した旨の記事が目にとまった。「二〇日図們江にかかる橋の開門と同時に荷物を載せたトラックが行き交い、普段は認められてい

る観光客の橋への立ち入りが突然禁じられた」。橋の先には金日成主席の大きな写真が掲げられていた。未だ記憶の新しく、その折りの光景が鮮明に蘇ったのである。

犬と暮らす



S 47年卒
佐々木 郁子
(旧姓 遠野)

犬と暮らし始めて今年で八年目になる。夫が在宅で仕事を始めた頃、犬を飼いたいと言いつ出した。その当時住んでいたマンションにはペット禁止の管理規約があったが、夫は自ら管理組合理事長を志願してこの規約を改定することに成功させた。用意周到である。

夫は実家で犬を飼っていたことがあったので、その頃の思い出をいつまでも温めていたらしい。私は私で、夫が在宅の仕事に変わって運動不足になるので心配していたところだったので、犬の散歩が良い運動になるならと軽い気持ちで賛成した。

夫はインターネットでブリーダーから直接シェルティの子犬を買って受けてきた。また二カ月の子犬であったから、その可愛さに夫婦ですっかり魅了され、トイレルのしつけに振り回されたり、大切にしていた家具をかじられたりと様々な

経験を経て、今は、再び会社勤務となった夫に代わって勤めを止めて家にいることが多くなった私が、最も長く一緒にいることになった。

犬は私の後をついて歩く。掃除をすれば掃除機を、あたかも風車に立ち向かうドンキホーテのごとく唸り声をあげてけん制する。私がトイレや風呂に入っている時はドアのすぐ前に座ってじっと私が出てくるのを待っている。ラジオで語学講座を開くの趣味としている私が、録音した講義をソファに座って聞き始めると、すぐ傍らに横になり、たどたどしい私の外国語の発音をもとめせず寝入っていく。散歩に出ると、尻尾の毛をふさふさとなびかせてサスペンションのきいた柔らかな足取りで並んで歩く。私は時々用もないのに呼び掛ける。犬はその都度立ち止まって物問いたげに振り向く。これが可愛い！

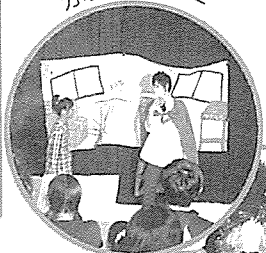
一緒にいられる一瞬一瞬を幸せに思う。土日であっても六時半に起こされるが、とても怒ることはできない。



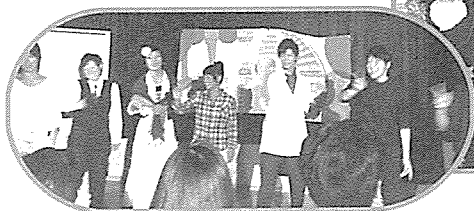
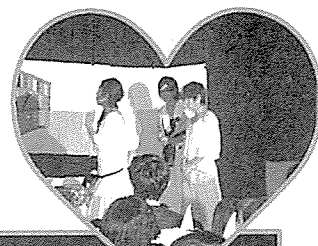
1-3 踊れ！ブタたち♡



ガオカライダー



優秀賞



美しい？シンデレラのお姉さん達

優秀賞



ストーリーを考えるのが大変でした



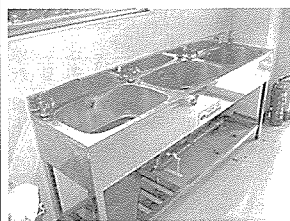
1-6 新グリム童話

—7匹の子やぎ・白雪姫—



(PTA会報より転載)

寄贈品



平成23年7月吉日
寄贈 向丘高校同窓会

同窓会の皆様より、体育館に洗面台を寄贈していただきました。

近年の猛暑は、大変厳しく、体育館で部活動や体育活動をしている生徒たちから、近くに顔や手を洗える場所がほしいと要望があったことがきっかけです。子供たちの体調管理のため、またとない御恵与のお品と心より感謝申し上げます。

向陵祭
2011.9.17 ~ 18

寄付者・会費納入者一覧

平成23年度中に寄付金・年会費をお振込頂いた方々です。(敬称略)
尚、3,000円以上の納入は寄付者扱いとして掲載させて頂きました。
ご協力誠にありがとうございました。有効に活用させていただきます。
尚、記載漏れがありましたらご連絡下さい。(平成24年2月6日現在)

寄付者名一覧

- ◆旧職員
中野 章
板井 哲夫
◆S24年卒
新井キミエ(石川)
大高多津子(秋山)
◆S25年卒
宮下 明子(小野)
◆S26年卒
夏田喜久子(福田)
◆S27年卒
鎌田 美子(佐々木)
◆S28年卒
久保田慶子(佐々木)
林 陽子(加藤)
久保田慶子(佐々木)
◆S29年卒
星 直正
阪田 律子(阪田)
長井 広美(岡戸)
中村香代子
◆S30年卒
加藤 貞子(岩永)
西正 トニ(市川)
大島美智子(除)
◆S31年卒
佐藤 令子(安藤)
松居 晃
小川 力洋
川端 春生
山本 越子(福永)
沼田 敬一
三田 昌男
石山 登
◆S32年卒
小柴美英(江大塚)
◆S33年卒
津坂 敬子(石神)
櫻井 弘清
◆S33年卒
西村 哲郎(小寺)
若林 和子

- ◆S34年卒
川崎 洋子(橋本)
藤●寿美(江宮田)
永田 正博
山北 宣久
壬生田紀夫(三浦)
石山彼早子(佐伯)
立花 玲子(古川)
◆S35年卒
五十嵐光俊
◆S36年卒
田中 正明
◆S37年卒
岩井 和子(大野)
河野 洋子
遠藤 泰紀
◆S37年卒
山崎 政利
宮下紀恵子
佐谷戸 実
河原 正史
◆S39年卒
湯浅美保子(奈良)
山口 斐子(山口)
◆S40年卒
井上 芳子
◆S41年卒
渡辺 恵美(高田)
原 淑子(近藤)
尾道 郁代(大橋)
長谷川三枝子(原)
◆S42年卒
皆川 和美
唐木 千咲
菊池 武博
◆S43年卒
鈴木 幹夫
◆S44年卒
榎本 裕子(高橋)
◆S44年卒
常岡 徑子(須田)
◆S45年卒
遠田 豊彰
◆S45年卒
宮久保 波
◆S46年卒
粕谷 卓志
恩村 一郎

- ◆S47年卒
笹山 幸子
◆S49年卒
石川 宣司
辻 薫
今出 隆久
上野 一成
◆S51年卒
波辺 陵子(木村)
◆S58年卒
旗野 敏弘
◆S61年卒
今井美代子(清水)
◆H2年卒
長谷川美和
◆H5年卒
橋 康隆
◆H19年卒
青木 竜哉
◆進会員
稲葉イト工
◆旧職員
長田 英方
古田 哲
井口 磯夫
東 祥三
池永 武昭
◆S24年卒
高木 芳江(高木)
石川 和子(柴崎)
板垣 勝代(田)
堀田 恵津山(田)
井上 早苗(阿部)
◆S25年卒
屋間 敦子(関)
◆S27年卒
太田 きよ(太田)
瀬戸口弘子(馬場)
高橋 清子
佐藤 陽子
安土 靖子(川崎)
幸田 俊子(田)
長谷川千代(中沢)
酒井美代子

会費納入者名一覧

- 津雲 貞子(松田)
◆S28年卒
岩松 英子(塚田)
鈴木 梅代(山本)
堀 満彦
江島 きく(荒川)
内山 昂子(豊田)
黒川 洋洋
小林 怜子(足立)
早船セツ子
長坂 順子(横川)
川井恵美子(酒井)
◆S29年卒
北岡千枝子(松田)
内丸 喜代(木崎)
佐武 和代(芝)
鈴木 禎子(山崎)
大西 弘明
濱口 春天
◆S30年卒
前田 信子(山本)
山田 順一
中川 貴子(山崎)
長縄 信孝
棚瀬 妙子(佐藤)
上田 明
岡崎 紀幸
広江 英一
若木 康孝
中村 素子(河野)
安河内恵美子(鷹見)
福原 淑子(野口)
◆S31年卒
中島 徹
平岡 正江(山本)
風間 全広
姫野千代子(近藤)
柏 やよい(保田)
水津 信雄
村上 満男
山田 和子(釘宮)
塚本トメ子(佐藤)
高尾 和子(杉本)
垣真美保子(高橋)
居村 正久
木村 隆

- 鈴木やす子(瀧美)
小林 啓子(小川)
二瓶恵美子(佐抜)
深瀬 恒美
榎貝 英子(稲垣)
◆S32年卒
大津 紀男
佐藤 元是
春川 園子(勢之)
宗村貴世子(山川)
太田 隆子(山口)
小西 圭子(城)
佐久間博子(岩垂)
◆S33年卒
中河 健男
◆S34年卒
植山榮次郎
郡司 茂代
乙部たみ子(新名)
森木 紘子(太田)
鈴木 紀音(原)
国府田美恵子(島田)
三木 桃子(竹谷)
古林 徹
関口 文雄
田牧 統一
江山 早苗(上田)
岸守 雅美(梅田)
桜井 暎子
◆S35年卒
大久保圭子(大久保)
小島 洋子(嶋)
三浦みさ子(江島)
橋本 寿子(岩本)
永沢 治子(山本)
能州 良彦
難波田久子(土井)
清水 幸明
山本 一智(高橋)
友部 佳子(立川)
◆S36年卒
寺尾ヒロミ
塚原 元昭
北川 敏子
真塩 共栄
三野 洋子(前原)
奥村 誠

- 黒野 宏
鶴岡 実
◆S37年卒
板谷 勝
寺村 光司
橋本日出子(小林)
橋本志津子(庵原)
村田 陽子(佐藤)
今村 春江(星)
鈴木多可子(浅賀)
南方 洋子(富田)
小黒 由明
牧野 進
浅原美子(野原)
山住 暎子(福島)
◆S38年卒
武政 征子(塚田)
桜井 昭子(高山)
小野 勲
梶浦 保子(上見)
宮澤 博子(興津)
太田 和子(豊田)
谷口 昭夫
◆S39年卒
北田 照子(大山)
藤尾 誠
木内 明代(田口)
能州 慶次
盛岡 治英
矢萩 公男
加藤 明子(中村)
玉井千枝子(永井)
◆S40年卒
細橋 正子
大西 政男
杉浦 重治
内田 淳子(青木)
澤田 孝子(藤村)
阿部 裕子(山田)
小山由記子(吉田)
◆S41年卒
鈴木千賀子(池田)
嶋 茂樹
竹内 伸一
町田 悦子(部)
戸田 光子(土井)
井村 忠

- 溝口 進一
鶴岡 俊子
三島 弘子(大竹)
横田代志子(三谷)
大村美登里(吉田)
三谷アツ子(西)
◆S42年卒
渡辺 幸恵(岩永)
橋田 照良
高橋 一男
植原美年子(川田)
松下 泰雄
佐古岡まさみ(畑中)
◆S43年卒
豊野 英正
◆S44年卒
加藤 篤子(内藤)
谷藤 優子(寺崎)
松上 恵一
飯野 正則
加藤 和子(堤)
◆S45年卒
深川 渡
山口 義朗
◆S46年卒
小池 二美(飯島)
富浦美恵子(北上)
◆S47年卒
丹下 薫
長谷川教子(高倉)
武田 正敏
矢島 明子(鈴木)
高田真里子(渡邊)
◆S48年卒
関口多鶴子
柏 英明
須賀 福子(牧野)
◆S49年卒
川島 清次
横山久美子
◆S50年卒
大西 絹子(田口)
永井すま子
千國 由起
◆S52年卒
坂爪 啓一
坂爪 明子(太田)

運営費にご協力をお願い
会活動活性化に向け、ご提案・ご寄付・年会費等の振込みを、ご協力お願い申し上げます。

- ◆S53年卒
中沢香代子(近間)
◆S54年卒
成岡 美佐
◆S58年卒
梓澤 秀昭
◆S59年卒
木下 玲子(川井)
千田三仁(江樋口)
◆S46年卒
内田 明美(内田)
◆H元年卒
横山 信夫
山川 芳徳
◆H5年卒
阿部 直子(雨宮)
◆H7年卒
熊谷 光則
◆H10年卒
高橋 美法
◆H11年卒
吉田 宗弘
◆H22年卒
中沢 友樹

平成22年度分
(平成22年4月1日から平成23年3月31日)

【事業報告】

I 役員会(幹事会)

H22年4月11日(日)
会計監査会 3名参加 於:小川事務所
H22年8月14日(土)
総会懇親会の反省兼納涼会(東京湾花火大会)
13名参加 於 有明佐々木宅27階
H22年12月8日(水)
会報企画(案) 打合せ忘年会 10名参加
於:駒込磯太郎
H23年1月20日(木)
次年度計画と原稿持寄り会 10名参加
於:北区東田端地域振興室
H23年3月27日(日)
年度末反省と納会 10名参加 於:駒込磯太郎

II 総会記念演奏会 於:母校6階ホール

H22年4月25日(日)
14:30~15:30
出演:母校吹奏楽部
指揮:前原寛先生
いつもながら真面目で立派な演奏でした。観
衆50名程。同窓会から激励意味で謝礼をした。
会員の参加少なく淋しく思われた。

III 総会/懇親会 於:母校6階ホール

H22年4月25日(日) 13:30~
例年のとおり少数参加
事業報告・予算案審議等可決承認されました。
16:00~ 懇親会
新卒者・新成人に大いに呼び掛けをしている
ものの極少数参加でした。残念でした。

IV 研究活動(全国大会)

H22年5月23日(日)
横浜大会を開催 14名参加

於:桜木町ワシントンホテル
[会報21号2頁ご参照]
H22年9月4日(土)~5日(日)
合同旅行会 12名参加 於:中禅寺湖畔亭
[会報21号9頁ご参照]
H22年9月18日(土)~19日(日)
向陵祭に写真作品を展覧 3名参加
於:母校3階会議室
[田中・川端・小川氏][会報21号9頁ご参照]
両日にわたり役員参観あり 10名参加
於:母校3階会議室
H22年9月19日(日)
15:30~16:30 PTA関係者と懇親会
8名参加 於:母校3階会議室
H23年3月4日(金)
卒業式予行会に会長が出席し、同窓会入会に
ついて御礼と4月29日の件について壇上か
ら説明をし、参加を喚起した。
於:母校体育館
H23年3月24日(木)
入学説明会に小川・宮久保氏が出席し、卒業
時に当会入会の件について生徒・保護者に小
川会長が壇上からお願ひした。
於:母校体育館
平成23年度全国大会として札幌大会を予定し
ていましたが、本年3月に発生した東日本大
震災に関連した諸事情を考慮のうえ、本大会
は中止とすることを本年3月27日の役員会に
て決定し、大会予算より10万円を義捐金とし
て東松島市災害対策本部に寄付致しました。
(追記 10月17日 実施されました。やよ
い22号に報告文あります)

V 会報関係

H22年12月8日(水)
会報企画打合せ会 10名参加
於:駒込磯太郎
H23年1月20日(木)

次年度計画と原稿持寄り会 10名参加
於:北区東田端地域振興室
H23年2月13日(日)
割り付け 2名参加 於:小川事務所
H23年2月20日(日)
第一回校正会 8名参加
於:北区東田端地域振興室
H23年3月3日(木)
卒業予行会に配布できるように母校に搬入した。
1200部(在校生500、新入生250、学校等)
H23年3月27日(日) 打ち上げ会を行った。
10名参加 於:駒込磯太郎

VI 渉外関係

H22年4月7日(水)
入学式に小川会長と田中相談役が参加した。
於:母校体育館
H22年4月9日(金)
飯田幸男前副校長を偲ぶ会に会長が参加した。
於:長寿庵
H22年5月28日(金)
PTA 総会後の懇親会に招かれ会長が参加し
た。
於:文京グリーンコート
H23年3月7日(月)
卒業式に小川会長と田中相談役が参列した。
於:母校体育館

VII 振興助成

S37年(第14期) 河原正史幹事に同期会を呼
び掛け229名に対し助成した。

VIII 卒対関係

H22年4月6日(火)
第62回卒業生の入会者について印鑑作成し
た。「103個」4月25日に参加者以外には
送付することにした。
H23年3月4日(金)
第63回卒業生の入会者225名について早期
に決定して頂いたので準備ができ予行日に各
組担任先生から渡して下さいました。

【決算報告】 左記決算報告のとおり

【審議事項】

- I 総会・懇親会(新成人を祝う会・新卒業生入
会歓迎会)開催の件
やよい21号2頁参照①
H23年4月29日(金・祝)
- II 全国大会・やよい札幌大会開催の件
やよい21号2頁参照②
報告事項IV参照
- III 宿泊研修会(合同旅行会)開催の件
やよい21号2頁参照③
H23年9月3日(土)~4日(日)
熱川シーサイドホテル
- IV 向陵祭参加とホームカミング開催の件
やよい21号2頁参照④
向陵祭 H23年9月17日(土)~18日(日)
9月18日(日) 15:30~懇親会開催予定
- V 同期会・クラス会等への通信費の助成
呼びかけ人数1通につき¥200 報告文を受
け取り次第、代表幹事の指定口座宛お振込み
致します。会合の集合写真等を添えて小川会
長宛速やかに郵送して下さい。
- VI 広報誌の発行と発送(会員相互の意思の疎通
を図るため)
平成24年2月に"やよい"22号発行の予定(会
員・クラス会・同期会等の適切な投稿を歓迎)。
原稿締切りは1月末とする。
- VII 新卒業生の入会者に記念品特注印鑑セットを
贈呈する
- VIII 年会費、寄付金のご協力をお願い
新卒者の入会金の殆どは会報関係に充当。年
会費は1口¥1,000~¥2,000程度運営費
としてご協賛をお願い致します。
年会費込み ¥3,000以上の送金は寄付金扱い
と致します。
- IX 次期定期総会の件
やよい22号紙上で発表予定

【予算】案 左記予算案のとおり

平成22年度会計報告及び平成23年度予算案

都立向丘高等学校同窓会
平成23年3月31日現在

収入の部	22年度決算		23年度予算(案)		
	金額	金額	金額	金額	
入会金(225名)	1,800,000	1,800,000	1,600,000	1,600,000	
年会費(含寄付金)	902,000	902,000	800,000	800,000	
総会懇親会費	76,000	76,000	50,000	50,000	
全国大会費	52,500	52,500	50,000	50,000	
諸会費収入	38,000	38,000	50,000	50,000	
雑収入	254,000	254,000	0	0	
前年度繰越金	2,493,986	2,493,986	2,939,024	2,939,024	
収入合計	5,616,486	5,616,486	5,489,024	5,489,024	
支出の部		金額		金額	
全国大会関係費	84,320	84,320	100,000	100,000	
交通費	73,000	73,000	100,000	100,000	
通信印刷費	58,791	58,791	100,000	100,000	
会議費	114,694	114,694	150,000	150,000	
総会懇親会費	200,000	200,000	200,000	200,000	
催物関係費	111,022	111,022	200,000	200,000	
慶弔費	120,000	120,000	100,000	100,000	
研究活動費	103,481	103,481	150,000	150,000	
振興助成費	45,800	45,800	100,000	100,000	
会報関係費	1,559,918	1,559,918	1,600,000	1,600,000	
渉外費	78,950	78,950	100,000	100,000	
雑費	6,968	6,968	10,000	10,000	
卒対費	120,518	120,518	100,000	100,000	
周年準備金	0	0	250,000	250,000	
支出合計	2,677,462	2,677,462	3,260,000	3,260,000	
次年度繰越金	2,939,024	2,939,024	2,229,024	2,229,024	
総合計	5,616,486	5,616,486	5,489,024	5,489,024	

上記の通り収支報告申し上げます。

平成23年4月29日

同窓会長 小川 力洋
会計 尾道 郁代 長谷川三枝子

監査の結果誤りの無いことを認めます。

平成23年4月3日

監査 石山彼早子 寺村 光司

やよい俳壇

檜紀代選(S31 佐藤令子 旧姓 安藤)

明治座を出でて大川天高し S 27 森重竜郎(龍彦)

花御堂踏みて見たる小さき釈迦 S 27 小松原錦子(旧姓 吉沢)

広告に誘はれ花のなき花野 S 30 安河内恵美(旧姓 鷹見恵美子)

破糸りの筋力計り葉月潮 S 31 梶田仍美(旧姓 坂口)

新社員上司は部落の鬼先輩 S 31 麻生やよひ(山本越子 旧姓 福水)

檜紀代吟

傷心のたびに智恵つき春となり
山彦の雲雀の早口聞きとれやず

訃報

佐々木 益男 元校長 H23.7.30 享年104歳
伊勢 武治 S31年卒 H22.5.27 享年72歳
加藤 一郎 S45年卒 H24.2 享年60歳
心よりご冥福をお祈り申し上げます。
ご報告のありました方のみを、お知らせしております。

俳句のお仲間になりませんか?
昨年、東日本大震災は、どなたも真剣にご自分の生き方を振り返ったことでしょうか。ついさっきまで当たり前にあったもの、存在した家族・友人・同僚などが、目の前から遠ざかってしまふ。津波でなくとも、いつ目の前からいなくなるかも知れないのです。自分を始め、廻りの人々が存在した痕跡を残しておきたいとは思いませんか? 写真も大事ですが、心の中心の想い出は独り占めできます。それを読めばありありと思ひ出す。それも一七文字で。最初は、鉛筆と紙と、あなたの意思があればいいのです。ご連絡、お待ち致しております。
(連絡先) 麻生やよひ (山本越子 旧姓 福水)
TEL/FAX 〇三三五三二一七四八九
E-mail: eusutra@a3.aone-net.jp

同窓会役員名簿

平成24(2012)年2月20日現在

役職	氏名(旧姓)	卒年	〒	住所	電話番号
顧問	新城 昇	歴代校長			
〃	池永 武昭	〃			
〃	北村 透	〃			
〃	北村 正生	〃			
〃	石井 隆夫	〃			
〃	戸谷 賢司	〃			
〃	前園 実	〃			
名誉会長	関根 茂	校長			
名誉顧問	小川 力洋	31年卒			
会長	宮久保 渡	45年卒			
副会長	三田 昌男	31年卒			
〃	杉浦 重治	40年卒			
会計	尾道 郁代 (大橋)	41年卒			
〃	長谷川 三枝子 (原)	41年卒			
書記	山本 越子 (福永)	31年卒			
〃	笹山 幸子	46年卒			
〃	佐々木 郁子 (遠野)	47年卒			
〃	今井 美代子 (清水)	61年卒			
会計監査	石山 彼早子 (佐伯)	34年卒			
〃	寺村 光司	37年卒			
幹事長	櫻井 弘清	32年卒			
西日本地区幹事	高尾 和子 (杉本)	31年卒			
新潟地区幹事	小山 ゆき子 (吉田)	40年卒			
仙台地区幹事	吉田 恵子 (吉田)	41年卒			
静岡地区幹事	増子 明美 (若尾)	31年卒			
茨城地区幹事	友部 佳子 (立川)	35年卒			
札幌地区幹事	恩村 一郎	46年卒			
事務局	難波 伸一	副校長			
相談役	川端 春生 (三橋)	31年卒			
〃	田中正明	36年卒			
〃	千田 二仁江 (樋口)	59年卒			